

城戸夕果 flute
藤本一馬 guitar
沢田穰治 contrabass

2024 06月19日 (水)

開場 19:30

開演 20:00

(2ステージ入替無) (1drink=600)

MC=3700+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail : info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



藤本一馬

1998年ヴォーカルのナガシマトモコと"orange pekee"を結成。2002年1stアルバム「Organic Plastic Music」で数々の賞を受賞。2011年からソロの活動を本格化。ギタリスト、コンポーザーとしてインストゥルメンタル・アルバムを4枚リリース (2011年「SUN DANCE」、2012年「Dialogues」、2014年「MyNative Land」、2016年「FLOW」)。近年はリーダーバンドとして林正樹(pf)、西嶋徹(cb)、福盛進也(dr)を迎えての演奏活動のほか、国内外の様々な音楽家とのコラボレーションを展開。また共演作品も多数あり、レコーディングや舞台などプロジェクトへの参加、プロデュースや楽曲提供などボーダーレスに活動。最新共演作品は、2021年「Remboato」のメンバーとして「星を漕ぐもの」、2022年に畠山美由紀(vo)との「夜の庭」、2023年1月「林正樹 Group」のメンバーとして「Blur the border」、2023年5月に伊藤志宏(p)との「風の旅立ち」など。その音楽性は、自己の内面を投影したメロディアスなオリジナル楽曲とリリカルなギター演奏のアプローチを中心としている。

城戸夕果

洗足学園大学在学中にジャズ・フュージョン系の音楽家として活動開始。89年、小野リサのバンドに入りブラジル音楽に目覚める。90年代は毎年リオに長期滞在し、複数のリーダー作を録音。ジョニー・アルフ、ジョアン・ドナート、カルロス・リラ、ジョイス・モレーノらと共演した。日本では自身のバンドでの活動のほか、宮沢和史、EPO、渡辺香津美らと共演。21世紀に入り、外交官夫人としてブリュッセル、ブラジリア、ボストンに在住。現地で音楽活動も行ない、2020年に帰国。ブラジル音楽を軸にジャズなどの素養、海外での多彩な経験も生かして活動中。

沢田穰治

ChoroClubのベーシストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動が続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作なども多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「CantaJobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲「マクロコスモス II」や畠山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までおおか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、バッファロー・ドーター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto / WaBaSaTa」が song x jazz からリリース。